

2010年12月 アカデミックセミナー 要旨

設備投資研究所

講師：専修大学経済学部 金榮愨講師

演題：経営多角化の影響に関する日米比較

日時：2010年12月8日（水） 10:00～12:00

要旨

企業における経営の多角化は、企業の成長やパフォーマンスと関連するため、日米において多くの研究が行われてきた。しかし既存研究では、両国間で異なる決算基準（単独・連結）や産業分類を採用していたため、経営多角化の影響に関する両国での比較分析が困難であった。本論では、アメリカの決算基準や産業分類に対応する形で、日本企業の経営多角化に関するデータベースを作成し、両国の比較を行う。

アメリカ企業のデータとしては、Compustat を利用する。そこで用いられている連結決算基準に対応させるため、日本政策投資銀行の企業財務データを用いる。さらに、そこでの産業分類を、アメリカのデータと対応する形に置き換え、日米比較を行った。

主要な結論は以下のとおりである。第1に、日本企業のほうが、アメリカ企業よりも、多角化している事実が明らかになった。平均的に、日本企業のほうが0.6事業ほど多く展開している。第2に、比較的古い企業において、その差が顕著である。1990年以降に上場された比較的新しい企業を比較すると日米間の傾向の差はあまり見られないものの、それ以前に上場された企業では、日本企業のほうが多角化している傾向が見られる。第3に、研究開発集約度は、米国企業のほうが高い傾向があった。特に、米国の小企業および専門企業（多角化の程度の小さい企業）において、研究開発集約度が高かった。この結果は、一見マクロレベルの事実（日本のほうが、アメリカよりもGDPに占める研究開発費の割合が高い）と対立するようにも思えるため、今後の考察が求められる。

以上